

農繁期 レポート

令和8年 6月号

栄ファーム

オーナー
産地
水田面積
保証量
形態品種

栄運輸工業株式会社
鳥取県日野郡日南町
18.4アール
玄米828kg
特別栽培コシヒカリ



生産者 三上 惇二さん

6月に入り田植えの早い田んぼからは1ヶ月が経ちました。5月の寒さに耐えた稲は6月の暖かさと適度な雨で順調に生育しています。今年は全体的にヒエの発生を抑えられ、今後の稲の生育がいつも以上に期待しています。中干しをはじめた田んぼもあり水管理が少し楽になった分、草刈を頑張ります。

6月の作業内容等

1. 分けつ

イネ科植物に見られる現象で、1本の苗から複数の茎が新たに生えてくることをいいます。分けつによって増えた茎の数が将来の穂数につながるため、収量を左右する重要な生育過程です。



適度に分けつした状態

2. 除草作業

ヒエやネコジャラシなどのイネ科雑草も、稲と同様に分けつします。そのため、初期の発生本数が少なくても成長とともに急激に増え、多くの種子を残してしまいます。雑草の繁殖を防ぐため、種子ができる前に根元から刈り取ることが重要です。



田んぼ内側の除草作業

3. 中干し

過剰な分けつを抑え、丈夫な稲を育てるために、一時的に田んぼの水を抜く作業です。土の中に空気を入れることで根の活力を高め、有害ガス(硫化水素やメタン)の排出にもつながります。田面に軽くひび割れが入る程度が適切な状態です。



適度に中干しが済んだ様子

4. 水管理

稲の生育段階に応じて、水深を細かく調整する重要な管理作業です。6月上旬から中旬にかけては浅水管理によって分けつを促し、その後は中干しを行うなど、生育状況や天候に合わせた調整を行います。

